

16/6/23 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋市民オンブズマン作成）

大村：委員から参考人の出席要求があったが→今回の要求は見合わせたい

田辺：委員長に一任した。

6月17日新聞 清水建設案の存在、内容 知れる範囲で議論

「当局のほう清水建設が応じない」と言っていた。

参考人招致は委員会が必要と思うことを

委員会として言ったのは昨日が初めて。

委員会が交渉したのは初めて。

なぜ当局は清水建設の意向を知っていたのか。

大村：当局に聞きたい

総務課長：清水案 辞退職 非公開情報 非公開・公開の意向を確認したい

参考までに参考人の予定があるか

田辺：それを僭越と言うのではないか。

委員会として表明はなかった。業者も委縮する。

行政の圧力と感じる。遺憾 委員の自由な発言がなくなる

当局は裏で工作している

参考人として呼べたかもしれない。

大村：委員会として当局に厳重に注意する。

資料について当局の説明を求める

総務課長：説明

塚本：5ページスケジュール

中身 平成32年2本の矢印

検討委員会×だった場合の交渉の説明を

館主幹：進んでいく

塚本：未確定、分からない

1回で了承するというもの

本丸御殿 復元検討委員会は何回か

渡辺主幹：本丸御殿 復元検討委員会3回

文化審議会は1回

塚本：3回復元検討委員会でどのように指摘されたのか

室長：基本設計で説明 屋根の材料 防災・防火関係

2回目 修正を説明 軒先の指摘 完成後の管理運営

3回目 再度修正 ご了解をいただいた 金具・建具

塚本：1カ月で了承の予定

本丸御殿 当初の予定からどの程度伸びたか

室長：18/12/25 19/3/25 19/7/23 19/9/5 に行った。19/11/16 に許可

1回目から11カ月で許可が下りた。

塚本：当初の予定

室長：ほぼこの予定通りに進んでいた

渡辺主幹：H18.19 設計業務がすすんでいた

塚本：3回復元検討委員会があるだろう

渡辺主幹：当初は早めに許可をとれば。文化庁のやり取りで3回になった。
設計内でおさめていた

塚本：予定通りか

渡辺主幹：文化庁のやり取りで異なる

塚本：天守閣 9月復元検討委員会 1回で了承を得ないと得ない
文化庁の協議はどの程度進んでいるか

渡辺主幹：文化庁 提案書の説明、資料的なものを提出していくかを説明
中身の資料は今後

塚本：意味がわからない

渡辺主幹：文化庁が中身を審議する資料の項目を説明

塚本：説明した結果はどうだったか

渡辺主幹：内容について。コメントはいただいている

塚本：一度で了承を得ないといけないというのはたやすいことなのか。

所長：現状変更許可を受けるのは簡単なことではない。

技術提案交渉方式 2020年7月 提案をいただいている
優先交渉権者も進めている。

10月までに許可を得るよう努力

塚本：1回でとれるとはっきり言えるか

所長：断言はできない。具体的なものを示して審議会にかける
現時点では文化庁はコメントできない

塚本：不確定な中 フローチャート

9月が×だった場合は全く不確定か

館主幹：詳細は詰めていない

塚本：文化庁の許可が最も大変。SLの例 調整がうまくできて予算執行。
先にやらないと協議にあがらない。

江上：11ページ 2万人アンケート市民の意見

考察と比較 その他欄 わからないという趣旨が多かった。

わからない47件 その他の工法41件

なぜこうなのか

館主幹：件数が多かった

江上：3つしか違ってない。表現がおかしくなかったか

館主幹：続くと書いてある

江上：もっと丁寧に

自由意見 考察に反映しているのか

館主幹：考察には反映していない

江上：名古屋の誇り 急いでやらなくてよいが並ぶ。

60%を強調するのは不適切だと思う。

館主幹：3000件のうち566件がシンボル

江上：2020年までに聞くことがアンケートの趣旨ではないか

館主幹：耐震対策として木造か耐震改修かを聞くもの

江上：急に耐震。史実に忠実ではなかったか。

館主幹：当初は耐震対策

江上：市が竹中と交渉、市が文化庁と交渉

項目 文化庁と交渉か？

渡辺主幹：文化庁とではない

江上：昨日は市議会と言っていたが

渡辺主幹：竹中 基本設計と実施設計を分けて出してきた

江上：本来なら両方を出すと言っていた。

基本設計費だけになったのは議会だけか、その他か

所長：文化庁 基本設計レベルで現状変更許可申請

今は分けた形で

江上：文化庁は何も返事しないと先程の議論

基本設計レベルでいいというのはどうして言えるのか

所長：文化庁の資料に書いてあった

江上：おかしいと指摘する

石垣 全部やると言うことか

室長：全体を調査

江上：50年かかって1割も行っていない

維持管理する立場としてこの程度の修復でいいのか

室長：維持管理上 悪いところを修復

すべての面について更新していくわけではない。

結果的に1割くらい。

江上：修復の財源 市なのか国の補助金なのか

室長：文化庁の補助50%

江上：5134平方メートル 国の補助が付いている

もっとやっていないといけないのではないか

所長：石垣修復 職員の目視で把握する

学識経験者の意見

国の補助が多ければ速くする。

悪いところは順次やっている

今回補正予算をお願いしている

江上：指摘しておく

鎌倉：10ページ IS値

熊本城0.37 どこか

渡辺主幹：把握していない

鎌倉：熊本城 全体の数字か

渡辺主幹：熊本での I S 値については一番悪いところ

鎌倉：4階 0.38 それより低い

ほとんどの階で倒壊する

石垣を守るのなら解体することも。

上を早く対応しないといけない

今回議論がっていない

石垣を守るため早く天守閣を解体するという考えについてはどうか

渡辺主幹：石垣は石垣としての状況を把握して。

建物は建物の対応

鎌倉：天守の木造もある

I S 値からすれば早く解体を。

石垣も守っていかないと。

田辺：6ページから19回の打ち合わせ

今回の予算 7ページ 8番目 調整

5月9日 見積書の内容確認

5月12日 見積書の内容確認

5月17日 調整

今回議案として出てきている それを踏まえたのか

渡辺主幹：おっしゃる通り

田辺：見積書 どのどれに当たるのか

渡辺主幹：5/6 から設計業務委託の確認

田辺：5/17 調整 最終打ち合わせで出てきたのが今日の見積書か

渡辺主幹：委員おっしゃる通り

田辺：技術提案

数字が若干合わないが

渡辺主幹：当初出された数字

縮減されたわけではない 数字はあうと認識。

12億-4億-7億=4900万

田辺：値引きは4900万

渡辺主幹：その通り

田辺：値引き額が少ない。営業マンとしては高い買い物。

2ページ 工程案

すべての変更点と置いていいのか

渡辺主幹：現時点での変更点

田辺：これに書かれていないスケジューリング

渡辺主幹：H29年以降は工事が始まる

田辺：総事業費

19回の協議 想定スケジュール

どういうスケジュールの場合工費がいくら 出ているのではないか

渡辺主幹：H32年7月 その中の範囲 どう進めていくのか

どうするか考える

田辺：どう作るか ただ1つのものを作るのにスケジュールが入っている。

それぞれで工費が出ているのが当たり前ではないか

渡辺主幹：今後中身を決める

田辺：あまりにも不誠実

さまざまなパターン このタイミングの着工ならいくら 出るから幅を持った見積書

僕も営業マン11年 短納期 通常納期 オプションを提出した

1日もつれ込むとこれだけかかります。

竹中はそれができないのか

渡辺主幹：19回の打ち合わせ 中身がどうなのか

設計をしていくことで仕様が固まっていく

手続きにのって進めていく

田辺：全体像がつかめない中設計費を出せ

丸投げするのはしたことがない

価格交渉はできた。504億円がびた一文下がっていないのか

渡辺主幹：コスト面も配慮しながら検討

田辺：19回検討 「事業費を明かせないまま設計費を了承してほしい」

所長：プロポーザル 504億 基本はこの額

提案書のレベル 設計をしないと交渉にならない

最高額として504億

田辺：それはいかん 竹中提案ではない。

竹中は設計していると言った。ここではっきり言った。

案のレベル そのまましか進めるのは失礼。

所長：準備をやっていただいている

基本設計ができているわけではなく、文化庁の許可得ていない

田辺：我々としても判断するのが難しい

技術提案交渉方式で変わるの承知している

丹羽：2020年に間に合うように技術提案交渉方式

設計をかけてたらまだわからん状況でしょ？

土中コンクリート

10億を認めることで500億 ばくち

ケーソン使っている

分からないことばかり 億単位のこと

不確定 安くも高くもなる

遅れても竹中で進めるのは問題がある

文化庁見解はどこまで把握しているのか

渡辺主幹：基本設計レベルで用意

建物自体 全体の許可

丹羽：10億の審議ではない。

渡辺主幹：文化庁審議 厳しい日程ではあるが資料を用意したい

丹羽：不確定ばかり

大きなところでの確認

田辺：1ページ資料 16/3/15 答弁

2020年に設計の段階で間に合わないと途中で明らかになった場合、「振り出しに戻して アンフェアにならないよう」

手を挙げなかったところも

この局長答弁は変えていないのか

館主幹：議員ご指摘の通り

田辺：プロポーザル実施説明書 了承して提案してもらっているはず

工事施工業務 「工期の遅れが確実になった場合、契約しない場合がある」

原則として契約を行わない

「受注者の責に帰さない場合」とは協議する

館主幹：文化庁の協議

田辺：文化庁の協議が長引く場合、到底着工しても間に合わない

協議して締結するのか？

館主幹：その段階で法律の専門家と相談して 延長してありうる

田辺：2020年7月ミッション 超えてもよいということが想定されているのか

館主幹：2020年7月に間に合う

田辺：あわない どう理解すればよいか

館主幹：文化庁の許可 最終的には文化庁の判断

原則は協議として、条件によっては延長がありうる

田辺：事業者にしてみると2020年に間に合わないと思っても着工できるのか

部長：現在は契約に至っていない 優先交渉をする

今は2020年を目指す契約を結ぶかどうか

竹中を是として契約に向けている

受注者の責めに帰さない場合 契約をした場合の整理

田辺：局長 設計の段階で明らかになった場合、

今の場合、契約の締結を行わない 契約をしていない場合

部長：委員ご指摘の通り

設計に入っている場合 今回予算を認めた場合、設計契約を結ぶ

田辺：冗談じゃない 設計をしている場合

今の話と違いののではないか

設計を受注している話

工事の受注を分けているのか

部長：委員ご指摘の通り 時点の問題、実際に設計に入る

現時点での解釈

この文言自身解釈がある

田辺：もう少し整理したもの

もう少し分かりやすい資料

2020年7月に間に合わない場合、発注することがあるのか、しないといけないのか
すっきり

館主幹：資料として提出する

江上：契約をしようとしている 否決されたら竹中には責めはないのか

館主幹：現在は議会の承認を得るまで優先交渉権者の負担

名古屋市としては経費は発生していない

暫時休憩

再開は1時

木下 市長発言の趣旨

不退転の決意 耳を傾ける→取り下げるのか

館主幹：取り下げるつもりはない

木下 2020年7月の撤回もありうる ただし、発注者として信義則から慎重になる

軽々しく言ってほしくない

竹中との間になにかあるのでは

市長としてよくない

館主幹：行政として責任 悩ましい

木下：いろんなことが起きている 感情がそうしたい

「公の場で慎重」好ましくない

もし議会として判断を保留した場合どのような方向性

館主幹：継続の場合 竹中と調整 状況として2020年7月が大丈夫か

どうしていくか検討する

木下：継続したら、2020年7月は無理じゃないか

確信があるのか

館主幹：現時点でも厳しい工程 交渉する

木下：可能性があると言う認識か

館主幹：ご指摘の通り

木下：否決されたら白紙 どうなるか

館主幹：ご理解を得られなかった 市長と相談の上方針を決める

議会にまた報告

木下：名古屋城 木造化はやっていきたいのは変わらない

もう一回プロポーザルをするのか

館主幹：否決された場合 どういったやり方がよいのか

木造復元には市民から同意・意見をいただいている

耐震のこと

その段階で考える

藤沢：国際展示場

ないのなら御帰りいただいた方が仕事してもらったら

江上：質疑をしない 審議をしないは違う

質疑をするつもりはない

大村：ご退席いただいて結構

田辺：全体感 基本設計が補正予算

全体の内容 順次詰まっていく 504億円がさまざまなパターン

設計を認める 504億円総事業費を認めることになる

観光その他債 財源調達も認めることになる

年間340万人の見込みも承知をしたことになるのだろう。

承諾を得たということか

館主幹：特別会計と一緒に

収支計画は毎回補正予算を出すときに毎回出す

現時点での試算に基づくもの

第三者の収支計画は改めて考えさせていただく

今の収支計画 補助金・寄付も入っていない 売店・駐車場も入っていない

収支を見直す要素がある

FIXしたものではない。

田辺：入場料1000円、450円 観光その他債の元

館主幹：使用料についても 現時点では1000円と450円

取り組みを進めていくうえで見直して行う。

平成32年7月の前年に条例改正

田辺：この補正は入場料1000円、450円を容認したということか

館主幹：起債申請に基づく収支計画ではそうだが、議会に承認されたわけではない

田辺：議案の条件を出してほしい

仮に議会の議決の整合性

普通あり得ない

値上げの容認まで認めると言うことか

館主幹：入場料収入で賄う 税金を投入しない

その部分は収支計画を見直す中で重視する

御約束はしていない

田辺：観光その他債では始める事業がスタートする

愛知県との連携 重要な問題

他の市町村との連携はどうなっているか

館主幹：現段階ではない

田辺：寄付や補助金 何の当てもない 入場料でまかなうしかない

江上：契約とはどういうことか

交渉する 基本設計の契約

なんとかだけの契約

優先交渉の話 2020年まですべてに手を付けた

館主幹：基本設計の契約になる

全体のルールを決める 基本協定を結ぶ予定

事業期間、全体の事業をお約束する

江上：議案審議 基本設計の話だけではない

基本協定を結ぶ 全部決めます そういうことか

館主幹：価格を交渉しながら 設計契約した段階で施工までお願い

江上：出てきた議案について審議

言葉は基本設計等 前提に全体の議論が必要

大村：結構です

江上：議案の撤回を求める

耳を傾ける→考えを変える

「自分で言い出すのはいや」議会に責任を押し付ける無責任

審議そのものがない

どういうつもりか

館主幹：市長「不転の決意」は変わらないが、慎重に判断する

今までの経緯を踏まえると悩ましい

それ以上の指示は受けていない

このまま審議してほしい

江上：無責任

審議する材料があるのか

局長：3度ほど市長に確認したが、今まで変わらない

取り下げる意思はない

江上：審議するしかない 等

0.14の話 急に耐震の話 2020年7月 責任が不明確

これをどうするかははっきり

こんな言い方はおろして

中川：入場者数等

49年前からずっと一定以上の入場者 確保したことが見たことない

50年間360万人 根拠は何か

館主幹：全体の魅力を高める

中川：街ひと仕事創生

主観・希望 人口動向 3県 H52 88%の人口規模

H22 愛知県 741万 H52 686万人

本市 2062 184万人程度 約8割

皆さんは入場者数について人口動態について基礎データとして算出したか

館主幹：他城閣を参考にしたので人口は参考にしていない

中川：人口動態 5年ターム

5歳ごと年齢階層

年代別にどのような年代が360万人来るとしているのか

第三者に調査依頼 どのようなことを依頼すべきか

局長：第三者委員 2-3か月かかる

中川：難しいのではないか

局長：私どもの集計がある

中川：第三者見込み 相当のかい離がある場合 どうするのか

見込み違いでアンケートをとった

アンケートの取り直しを視野に入れるのか

局長：結果が出ている

今後の収支計画を立てる段階で議会に判断を示す

中川：基礎データが第三者と相当なかい離のある場合、判断基準が変わってくる

再度アンケートをとりなおすことも必要ではないか

局長：かい離の具合による

総額 一般会計予算 フレームは変えない中での

その時で考える

藤沢：今後のこと

我々が否決 議会の意思が明確

継続 文化庁との9月に間に合わない場合

協議は2020年に間に合うんですかという協議か

館主幹：継続審議になった場合、2020年7月の前提ができるかどうか

法的に問題がないか 弁護士と確認しながら

藤沢：弁護士と？

館主幹：プロポーザルが2020年 変えることは難しい

考え方について問題がないか弁護士と相談する

藤沢：ずらして竹中と交渉するという事か

館主幹：2020年を外して契約するのは可能か

藤沢：やるつもりがあるのか

2020年が間に合わない場合も竹中と契約する意思か

部長：考え方

現在は竹中工務店と契約関係はない

2020年を外すと随意契約の理由はない

100%その通りか 専門家との確認ができていない

大変難しい

2020年7月 随意契約の条件が正しいか専門家と確認していない

藤沢：継続審査になった場合、竹中と相談

名古屋市 議会の意思は大きい

いろんな審議がなされた。2020年7月はいかがなものか 疑問点でた

その時点で、タイム的ではなく、議会から疑問が出たのでという主張は？

局長：その辺を含めて市長と相談

藤沢：成立にベストを尽くすのは当然

今回の議会の判断の後 重く受け止めて市長も耳を傾ける

この議会だけでなく

時間的な問題はすぎた

私自身は「木造絶対だめ」ではない

木造化は一つのやり方

2020年7月はいかがなものか

もう少し緩やかになって 入場者数 市民の機運の盛り上げ

このことが空中分解をすることはもったいない

名古屋の在り方にとって問題

当然議会との信義則もある

「3か月延びてもできますか」だけでなく

提出 6/24 10:30